

2007.初春

本音 本気 本腰!

『知行合一』
とにかくやってみる
動かなければ始まらないから
これからも考えます 動きます
『百試千改』で



今を想う（2007新春号）

去る10月8日、テレビ朝日で住民と行政が一緒になって考え、地域活性化のための、ものづくりを積極的に取り組んでいる「岩手県滝沢村の柳村村長」の活動ぶりが報道されていたのを多くの方がご覧になっていたと思う。

民間を越えて働く役所として、先ず職員の意識改革から始めた。村長は自分を社長と呼ばせ、吏員（職員）を社員と呼ぶ組織変更を行ない、徹底した行財政改革の手段として、64人の係長を廃止した。保守的で権限を守ることに汲々としている役人の発想と前例のないことには頭から否定する悪弊を一掃しようとしたわけだ。民間の発想を積極的に取り入れ、官と民の心が対等となる地域のコーディネーターとしての役割に徹し、互助の精神、助け合いの精神こそ改革だといって、リーダーシップを発揮している。

村長（社長）室にはほとんどおらず、一日中社員の間を巡り回って、その仕事ぶりやネックとなっていることを、じかに聞いて適切なアドバイスを行ない、社員ひとりひとりのレベルアップと本当の意味で上下の隔たりのない組織作りに取り組んでいる。また新入社員入社試験は、全くの学歴不問で面接試験のみとし、その内容は折鶴と鉛筆削りであった。応募した学生たちの驚きようたるや心の準備が全くなく不意をつかれたハトのような顔をしていた。採用側の社長にしてみれば、この程度の器用さと遊び心のない人間は使えないということか。実にユニークな発想ではないだろうか。

井原市においても職員の意識改革を唱える新市長に是非とも参考にしていただきたい。新市長と議会がともに知恵を出し合い、車の両輪の如く付かず離れずの距離感で、全国の範となるべき方向性の改革を市民は望んでいるのではないだろうか。（滝沢村の人口は約53,000人・日本一人口の多い村）

上田かつよしを育てる会会長 安井 淳 良

上田かつよしを育てる会

〒715-0019 井原市井原町680

TEL 62-1982

<http://www.ibara.ne.jp/~uecans5>

e-mail:uecans5@ibara.ne.jp

ご意見ご要望をお聞かせください

ホームページ
リニューアルしました。

☆エッセー☆

小泉総理の誕生以来「改革」が叫ばれ、文字が躍り始めてもう6年目に入りました。その小泉総理は9月で退陣しましたが、何事においても、自分の周囲を見回してみても「改革」に終わりはない。戦後60年を経過した今でも「先の大戦」ということばを結構耳にする。私自身昭和31年生まれだから全く戦争経験はない。戦後処理を速やかにきっちりしていないから、近隣諸国から「先の大戦」の戦後処理を現在も将来も、いつまでも言われ続けなければならないのだろうと思う。ここでも問題の先送りの弊害が顕著に表れているいい例だろう。年金、医療、介護、教育、環境、福祉、早急に処理しなければならない問題が山積だけれど、今、すべて先送り状態だ。こうしていても刻々と国の借金は増え続け、少子化は止まらず、高齢化もどんどん進行していく。互助の精神が希薄になっている現状では、支えあうということが前提の制度はもう破綻しているといっても過言ではないのではないかと。もっと真剣に知恵を出し合う時が来ているのではないだろうか。

（上田勝義）